

# 地域学校協働研修会（放課後子ども教室の部）

主催：福島県教育庁県北教育事務所

令和8年6月8日（月）福島県庁西庁舎12階講堂において、県北域内の地域学校協働活動事業関係者参加のもと標記の研修会を開催しました。今回は、放課後の居場所づくりで大切にしたいことについて学び、参加者の資質向上をめざす機会となりました。

## 1 講義「どの子ども安心できる居場所づくり」

～「不器用なSOS」を読み解き、安心を形にする～

講師 福島県教育庁県北教育事務所 指導主事 佐藤 真智子 氏

### 行動の背景要因を考える

【表面】 不器用なSOS

【背景・要因】

何をすることがわからない  
うまく表現ができない 刺激が多すぎる  
行動や感情のコントロールができない



目に見えないことの困難さの理解と支援が必要



【不器用なSOS, どんな行動が思い浮かびますか？】

### ● 目に見えないことの困難さの理解と支援

- 目に見える行動にとらわれすぎていないか
- 目に見えない「子どもが本当に困っていること」に手をさしのべることが大切



【「事実」の奥にある言葉にならない「想い」を拾ってみよう】

「助けて」と言うことは、大人でもハードルが高い

「わからない」と言えたこと自体を高く評価する姿勢が大事

### ● 自尊感情とは「ありのままの自分を大切にできる気持ち」

#### 「できる自分」を前向きに信じる力

- 感覚 「できる」「やればできそう」だという、自分の可能性を信頼する気持ち
- 状態 意欲や達成感、自分を価値ある存在だと思う肯定的な心の状態

## 「今の自分」を丸ごと受け入れる力

- 感覚** 「完璧でなくても大丈夫」「これが自分だ」という納得感
- 状態** 不完全な自分も自分らしさだと思ふ、ありのままを認める心の状態

## 健やかに保つために

### ●視点の転換

不完全な部分を、自分だけの特性や「強みの種」として捉え直す

### ●自分を「認める」

他者の基準ではなく、自分なりの努力や「大切にしてきた工夫」を肯定する

## 2 演習「こんな時どうする？」

～あの子のサインに寄り添い、明日への一歩を考える～

### 大人のアプローチ

- × **子どものキャパシティ**  
このバランスこそが重要！

出発点は「事実」。まずは、子どもの姿をそのまま拾う。「子どもが怒っている（主観・解釈）」ではなく、「子どもが机を叩いた（ビデオに映る事実）」と捉える。

### 【講師より】

「ちゃんと言いなさい」と教える前に、まずはあの子の「不器用さ」に寄り添うことから始めたいと思います。

あの子が受け止められる速さで、こちらの関わり方を根気強く、何度も微調整していくこと。その丁寧な関わりを繰り返す中で、あの子の不器用なSOSは、やがて「自分で助けを求める力」へと育っていくのだと信じています。子どもの「居場所」は、どこか特定の場所ではなく、他の誰でもないあなた自身です。「この人は、自分の不器用さも丸ごと受け止めてくれる」という安心感こそが子どもにとって何より居場所になります。



【事実から支援策を考えよう】



【感情に善悪はない。思うのは自由！】

### <参加者の声>

- 子どもたちを見るとき、何を大切にしたら良いのか、改めて知ることができました。色々な方とお話をする時間もあり、不安の解消や学びにつながるよい機会でした。
- 大人の目で思い込みではなく、事実をみることの大切さを学びました。小さなサインを見逃さず、子どもの不器用さに寄り添うこと、何度もくり返し関わる中で、安心できる居場所となるよう、日々職務にあたっていきたいと思います。

より詳しい研修会の様子を知りたい方は 県北教育事務所 総務社会教育課 橋本まで  
(電話：024-521-2814 E-mail：hashimoto\_takeshi\_04@pref.fukushima.lg.jp)